

創立70周年によせて

PTA 会長

70周年実行委員長 松原史尚



昭和22年、5月3日に開校した、那加中学校は当初、現在は農協がある那加前野町に存在しました。創立50周年の記念誌を見ると、その当初を知る人が多く寄稿し、創立当時を振り返る文章もたくさん存在しました。時代は流れ、平成の時代が終わりを告げる平成29年、母校各務原市立那加中学校が本年70周年の節目の年を迎えることができましたこと卒業生の一人として本当にうれしく思います。

流れる時代が伝統をつくり、時に伝説となって語り継がれる。「ご縁」こうした節目のたびに思うことです。素晴らしい伝統のある中学校が、少子化、過疎化、様々な理由で統廃合されています。どんなに、母校で役立ちたいと考えても、そのタイミングで子宝に恵まれなければその任をいただくことはできません。自らの力ではどうすることもできない流れの中で、こうしてご縁をいただくことができる。松原家はこの70年の間で、親子3代で4回もPTA会長をさせていただくことができました。ご縁に感謝です。私たちに限らず、このご縁を受け止め、繋いでいただけた多くの卒業生、恩師、行政関係者、近隣住民の皆様、数えきれない多くのご縁の連鎖が、素晴らしく重なり合って、愛する母校各務原市立那加中学校が、本年70周年の節目を立派に迎えることができたのです。そして、この「ご縁の連鎖」こそが、那加中校区を県内外からの移住人気が大変高い各務原市の中でも特に人気のある中学校区、「子どもは那加で育てたい」そんな評価を受ける街に育てたのだと感じます。

既に、この文章を寄稿させていただいた時には、創立70周年記念式典が無事に終わっておりました。平成26年度からの、PTA本部役員の方々の素晴らしいご縁の連鎖を礎にした実行委員会が機能し、行政の支援をいただきながら、卒業生、恩師、職員、地域、保護者、生徒会、多くの人たちの歴史を継承する心構えが、参加した全ての人の心に残る素晴らしい式典にすることができました。この素晴らしい式典も、ご縁の連鎖が生み出した素晴らしい成果であったと感じます。心からの感謝です。

今後、創立100周年に向け、学校教育目標である「主体性」自ら求める 鍛えやり抜く 思いやる【明日も来たい、誇れる学校】の実践を通し、那加中学校の伝統を受け継ぐ生徒たちを育成していくことこそが、「那加に住み見たい」そう人々があこがれる街那加を後世に繋げていくことだと信じます。この節目にあたって、「人づくりこそ、街づくりの根幹」であることを理解し、行政の協力をいただきながら、地域、職員、PTAが一体となって生徒を支援し、学校目標を実現していきたいものだと考えます。

100周年、また、節目の年に、私の子どもの誰かが、またPTA会長を務めていてくれたら、そんな素敵な「ご縁」を夢見て。

Message



気風と誇りを持って未来へ

藤井雅二 校長

(平成6年4月～平成10年3月在任)

創立70周年おめでとうございます。長い歴史の一時を生きて、この祝辞が書けることを心底嬉しく思います。

私個人のことでありますが、昭和39年の異動で那加中学校に来て、11年間勤めさせていただきました。その後市内異動を繰り返し、再び最後の4年間を務めました。市内でのスタートもゴールも那加中学校です。勤務年数は通算で15年間になり、教職38年間の約半分近い時を過ごし、その中で支えられながら成長させていただきました。本当にありがとうございました。

世界、日本、地域社会は日々刻々と変化しています。その中で生きる生徒や学校も同じです。ただ、その変化があまりにも速く激しいと、生徒たちが落ち着きをなくしたりして、対応が大変難しくなります。そんな時、今こそ何をどのように教え、何を育てるべきか、悩みも深くなります。しかし、那加中学校では、そのたびにPTAや地域の方々の手厚いご協力と支援をいただき、乗り越えてきたと思います。

これから先、世の中の仕組みだけでなく価値観も急激に変化し、伝統との整合に苦慮することが出てくるかもしれません。これからは家庭、地域、学校・PTAの強い絆で課題を解決し、那加中学校の気風と誇りをもって未来に羽ばたくことを願ってやみません。



憧れ的那加中学校

長谷川 清 校長

(平成10年4月～平成13年3月在任)

飛驒の学校から那加中に転勤してきたのは昭和42年、教員4年目20代半ばでした。私にとって初めての中学校勤務で、初めての中学生たちとの対峙でしたが、年齢も近かったので彼らが抱える悩みも不安もそして沸々たるエネルギーも手に取るように理解できるのですが、経験不足の私には適切な言葉ひとつかけることが出来なかった苦々しい日々を思い出します。しかしその難しさこそが中学校教育の魅力であることに気づかされたのも当時の那加中でした。

爾来30数年、県内のさまざまな職場を転々とし、平成10年、私の教師人生締めくくりの3年間を再び那加中で勤務させていただくことになったことは望外の喜びでした。PTAの会議に参加すると30年前の中学生が堂々たる父親や美しい母親になって座っていて、「オッ！」と会釈をしまいました。当時のやりたい放題の若造教師時代を知っている彼らの前で少々赤面の思いでしたが、それよりも彼らが地域に居てくれることを心強く頼もしく思いました。生徒と職員と地域の垣根が低くどの方向へも開かれた那加中学校、自分の表現の自由を謳歌しつつも、常に主体的な自分を維持できるキリッとした教師たち、私の定年前の那加中学校の3年間はそんな憧れの中学校に近づいたのでは、と感じることもあった夢のような3年間でした。

創立70周年を過ぎてなお、だれもが憧れる中学校を目指して進み続けていかれることを願うばかりです。